

歴	史	を	感	じ	て
---	---	---	---	---	---

夜須⑥三牟田マップ

この資料は、「筑前町の歴史」、「夜須の民話と伝説」、インターネット等を引用し作成しています。

びら〜り



散歩

三牟田の神社、遺跡、公民館、公園等や地域の活動を紹介します。

これからの時代、健康づくりが大切です。歴史を感じながら散歩を楽しみましょう。コロナに負けるな!

三牟田の由来

(江戸時代の夜須町より)

三牟田村は村内に水源が少なく東隣の曾根田村に依存していた。『地理全誌』によれば、村内に池三所(現田代・前田・大村の各池)が知られ村名の由来と思われる。



三牟田

神社	天満宮
遺跡	ヒルハタ遺跡
その他	神功古道
	東波塾
	宝篋印塔
	くりぬき溝(詳細は、夜須④曾根田マップを参照)

宝篋印塔(ほうきょいんとう)

宝篋印陀羅尼を納めた経塔(きょうとう)。これを礼拝することで罪障(ざいしょう)が消滅し、苦を免れ、長寿を得ると信仰された。正方形平面の塔身上に段形の屋根をのせ、その四隅に突起した飾りをつける。日本では原始宝篋印塔と称されるものは飛鳥時代までさかのぼり、鎌倉期には石造のものがさかんに作られ、のち供養塔、墓碑塔として用いられた。



★地名の由来や伝承等ご存じの方は、下記までご連絡ください。

お問合せ:筑前町社会福祉協議会

(筑前町篠隈373コスモスプラザ福祉館)

TEL: 0946-42-4555(担当 時津、石丸)

Eメール:chikuzenshakyo@tea.ocn.ne.jp

神功古道(じんぐうこどう)

筑前砥上~勝山・陣ノ内・畑島~森山峠~栗田~弥永

「日本書紀」によれば、神功皇后は秋月の羽白熊鷲(はじろくまわし)を討つため、「香椎の宮」(福岡県東区香椎)から進軍しました。従って、当地方への侵攻は砥上方面からと想定されます。この道は古く、東に行くと森山峠を越えて栗田~弥永~秋月へと山麓を縫うように通います。

侵攻した皇軍は、栗田の「松峡(まつお)」(現在の栗田八幡宮)に宮を定めました。ここで陣容を整え、熊鷲軍との決戦に臨みました。背後の「目配山」山腹には「松尾」や「上宮」の小字名が残されています。決戦は「層増岐野(そそぎの)」(新町・高畑付近)で行われ、皇后は熊鷲軍を滅ぼし、「我が心安し(安心した)」と周囲に語りました。この「安」が当地方の地名起源とされ、奈良時代に「夜須」(郡)の二文字に改められました。

伝承によれば「目配山」の山頂は皇后が腰掛けたという大石、また四方に目を配ったという伝説が残されています。皇后は熊鷲軍を滅ぼした後、朝鮮半島の新羅へ出発準備のため、「中ツ宿なり」といって兵士に武器を研がせ、そのため池の水は錆びて赤くなったといわれます。この地が古代の「中津屋郷」で現在の砥上(中津屋)神社一帯とされています。

その他、三並には、皇后郡の旗竿に使う竹を切り出したという「勝山」、皇后が陣を布いたという「陣ノ内」の地名が残されています。また、畑島桜林の集落を流れる三並川を遡ると「ヲケジョウ」という小字名があります。皇后はこの「お手水の滝」でお化粧を直したといい、この川は別名「お化粧川」とも呼ばれています。

